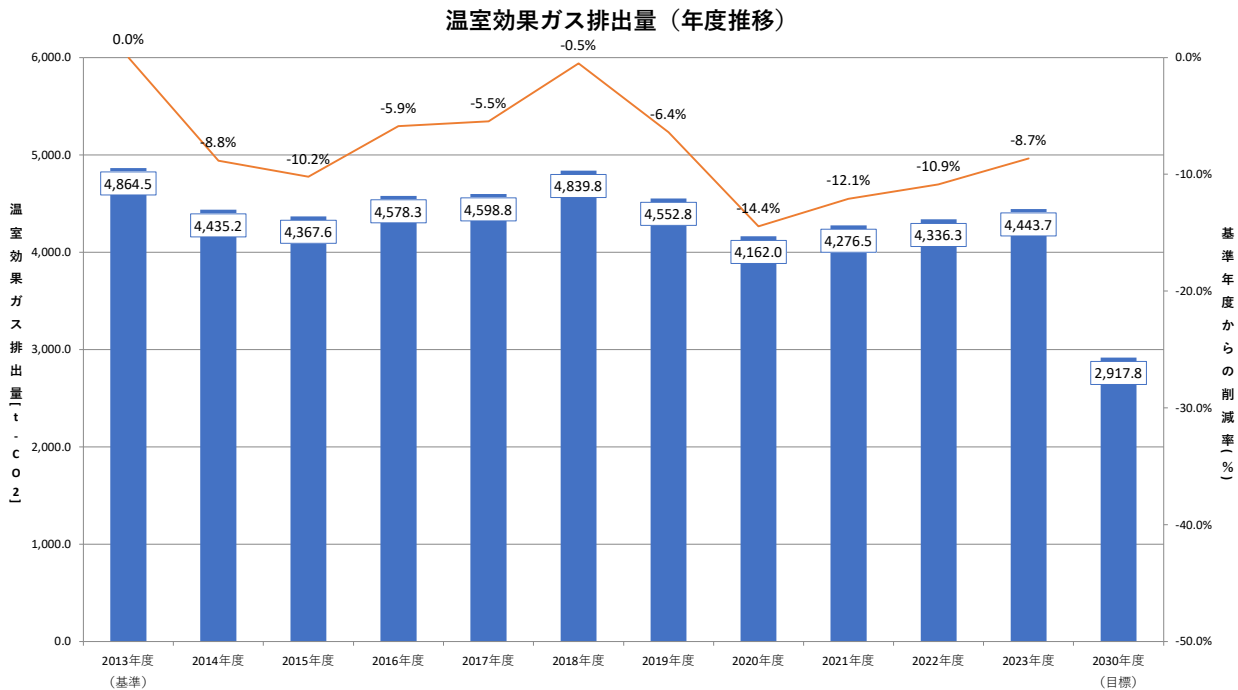


温室効果ガス排出量（年度推移）

単位：t-CO2

項目	2013年度 (基準)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	...	2030年度 (目標)
温室効果ガス排出量（全施設合計）	4,864.5	4,435.2	4,367.6	4,578.3	4,598.8	4,839.8	4,552.8	4,162.0	4,276.5	4,336.3	4,443.7	...	2,917.8
削減率（対基準年）	0.0%	-8.8%	-10.2%	-5.9%	-5.5%	-0.5%	-6.4%	-14.4%	-12.1%	-10.9%	-8.7%	...	-40.0%



【2023年度の温室効果ガス排出量の特徴】

2023年度は基準年度である2013年度に比べ－8.6%（421 t）と減少したが、2022年度と比べると2.1ポイント（101 t）増加した。

【近年の増減に関する要因考察】

- ・2018年は春から夏にかけて記録的な高温となり、それに比例して冷房設備の使用が増加したことが温室効果ガス排出量増加の要因と考えられる。
- ・2019年も前年と同様に気温の高い状態が続き、冷房設備の使用が増加したことが温室効果ガス排出量増加の要因と考えられる。

なお、この年から笠神保育所が民営化されたことにより、対象施設から除外している。

- ・2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、各施設で休館や利用率が減少したことが温室効果ガス排出量減少の要因と考えられる。

なお、この年から鶴ヶ谷保育所が民営化されたことにより、対象施設から除外している。

- ・2021年度からコロナ禍以前の状況に戻りつつあることが温室効果ガス排出量増加の要因と考えられる。

なお、この年からさんみらい多賀城イベントプラザが稼働し、対象施設に追加した。

- ・2023年度は、気候変動の影響により猛暑が続き、対象施設での冷房設備の使用が増加したこと及び市役所北庁舎が2023年11月に開庁し、市役所庁舎における電気やガスの使用量が増加したことが温室効果ガス排出量増加の要因と考えられる。